

# 肱川

発行  
肱川村役場  
1959・3・20  
編集  
肱川村教育委員会

## 消防団出初式挙行

消防団出初式は三月十日、高砂グラウンドにおいて挙行、知事代理、一宮郡連合会長、大洲警察署長、村内有志多数参列、折からの雨にも拘わらず、団員は元氣旺盛であり盛会裡に終了した。

当日表彰を受けた優良団員は次の通り、

消防協会長	中居喜代光
副 団 長	山口 清政
第一分団副団長	富永 善吉
第二分団副団長	徳本 孝雄
第三分団副団長	藤尾 実男
第四分団副団長	清水 昇
第五分団副団長	三瀬 丑夫
規律章	福山 一衛
郡連合会長	稲田 光春
勲章章	谷 元春
第一分団 班 長	宇都宮寿雄
第二分団 班 長	玉井 清
第三分団 班 長	岡村 利之
第三分団 班 長	山下 広美
第三分団副団長	大塚喜代春
第一分団 班 長	出水 好明

## 本月の出来ごと

国大会を開催の予定となりました。

〇二月	大洲高校肱川分校文化祭
一四日	臨時村議会を開く
一五日	ボートレースに関する懇談会を開く
一六日	青年建設班第三回結成式
一八日	村常会 午後六時より予子林中学校において中学校統合に関する懇談会を開く
二二日	岩谷橋開通式
二三日	おやぶ 広報施設完成
二四日	中学校統合懇談会を開く
二四日	岩谷校において中学校統合懇談会を開く
二五日	遺族相談 国保運営協議会を開く
二六日	大谷地区 中学校統合懇談会
二七日	役場において鹿野川地区 同
二八日	正山小学校において同
〇三月	農業委員会
一日	委員長連絡会 乳牛検診
二日	上さがや 故海二曹
	下さがや 高橋武敏君
	瓜生谷 故陸兵長
	山下昌訓君
	英霊帰還

## 改正になった

新法の内容  
市町村の国民健康保険実施義務を法定し、昭和三十五年度までに国民皆保険を達成することと、被保険者の範囲を統一し、保険給付の内容の充実をはかり、医療担当制度等の改善を行つたほか、国庫負担制度を整備するとともに、あらたに療養給付費の五分相当額の調整交付金制度を設けて国保財政の調整を行う等、国保皆保険体制の確立を期したものであること。

一、保険給付の充実改善  
昭和三十四年四月一日より病院又は診療所に収容した場合における普通給食及び寝具設備の給付。

尚移送料の給付もすることゝなつた。但し之に対しては承認を要する。

一、一部負担金の窓口払の実施  
新法により一部負担金の保険者が払が出来なくなつた。従つて昭和三十四年四月一日より診療費の半額を医療機関(病院、医院)の窓口にて支払を要することゝなつた。

二、附随事項  
昭和三十四年四月一日を期して新保険者証(黄色刷)を交付する、部落長経由お渡しします。確実に引換をして下さい。

## 人口動態

出生	三四・二・二八
山島坂	和氣 福芳
山島坂	山地 敦子
山島坂	田川 真里子
山島坂	城ノ戸 典子
山島坂	山内 清司
山島坂	和氣 勇子
山島坂	森田 富士子
山島坂	谷田 庄吉
山島坂	高尾 重美
山島坂	中田 初子
山島坂	大野 立志
山島坂	中津 渡辺 乃
山島坂	増田 茂理
山島坂	久保 弥太郎
山島坂	宮川 裕美子
人口	
男	四・〇三一
女	三・七五八
計	七・七八九
世帯数	一・四三六

## 火

災の予防!!

三、四月は年間で一番空気が乾燥する季節です。山林火人の時期でもありますから、みんな火の元に充分注意して下さい。カマドや煙突の整備と掃除を怠らず、火災を未然に防ぎましょう。

林野のタキ火、タバコ火にも充分注意して森林災害を防止しましょう。

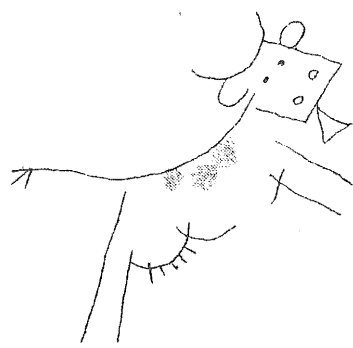
## 植樹を

愛しましょう

本年もダム周辺と道路端の補植を合わせて、桜、もみぢ苗約二千本を植付けました。

最初植付けた桜苗はもう花を見せ始めていますが、道はたの苗木でたゞかれたり、ふみつけられたりして泣いているのも多く見受けられます。

植付けた苗は、雑草やかずらを除いたり、肥料も施して毎年手入れをしています。みんな愛してやって下さい。



# 三十三年度回顧

四月の晩霜、ついで多湿、旱魃と天災相つぐ上に、蚕繭を筆頭に、本村換金作物陣はいずれも成績かんばしからず、拍手でおくれる年ではなかつたようである。天災を除いては予測された傾向であるが、生産、流通の協同化を柱とする経営改善の必要が一層認識され始めた。ともあれ村の奨励事業を素描して本年を回顧したい。

## 1 農地不足の上に立つて

経営面積の少いことは最大の悪条件であるが、だからこそ、土地を有効に利用することは急務である。限られた土地と資金で多くを生産するために

### ① 酸土 老朽水田の改良

### ② 優良種子の使用

### ③ 病虫害の防除

④ 早植の奨励を行つた。土壌改良は一三・一ヘクタール種子普及四・三ヘクタール(水稲)早植中(ビニール苗代)一・四ヘクタール、病虫害防除延ヘクタールを実施し、更に動力撒粉機二基を村費をもつて購入、貸出しを行い、防除の効率化を図つた。

## 2 酪農伸びる

本村農業振興の基本を、畜農業(養畜農業にあらず)におくことは、常識であるが、肉、乳ともに価格ふるわず案じられたが、乳牛

## 3

傾斜地有利な利用へ急傾斜地地の有効な利用は本村農業浮沈の鍵であるが、土壌浸蝕、畜産との結びつきを考へて、永年性作物、特に、柿、栗、茶を立地条件に応じ増植することを奨励した結果、茶は育苗穂木五万本、栗五・四〇〇本(一七・七ヘクタール)柿五〇〇本(一・九ヘクタール)増植された。木炭の品価向上へ

## 4

本年は三三年度と比べ、五〇〇俵の増加の七五・五〇〇俵に対し、販売額は五〇〇万円減となり、優良木炭の有利性が、顕著に現われた。このため原木の改良、製炭技術の向上が要求されるが、木炭生産組合、森林組合と協力して、講習会(五)阻悪林改良(七町歩)を実施した。

## 5

海外への意欲たかまる年度始め海外移住モデル村の指定をうけ、県の指導をうけ乍ら、海外事情の紹介、移住の必要さ等について、映画会、座談会、講演等を開催した。特に講演会には知事の来村を得、次第に移住熱も高まり、四十数世帯の希望登録者をもつてい

この他、県の援助を得て、生活改善指導員を設置、農家生活の改善指導の強化を図つた。又、従来地区的に行つていた品評会を、青年団、婦人会その他農業関係団体の協力によつて、畷川農業祭として、中央に於て実施し、多くの參觀を得た。その他青年建設班の実施、新農計画のため調査等、生産力の拡大、生活の向上を目指して微力であるが事業を進めた。

以上簡単であるが、三十三年度事業の素描と回顧を終わります。

## 「椎茸」

### 乾燥場について

例年にならない豊産であろうと言われていた春子は、予想程ではなかつたが、乾燥設備不十分で腐らせた方もある様聞き及んでいます。案外思い付やすく、斯の成果充分昇るドラムかん利用の乾燥場が良い。乾燥場を建設するのに最も大切な事は、自己の収穫予定をた

てる事で、余り最初から大きなものを建造するのは人に笑われるとかで小さくし、二、三年して処理出来ぬ様になり、雨茸の如きは収穫の半分も腐らせて見て改造する傾きが多い。

乾燥場の規模はエビラの枚数で一カ年の収穫が六〇貫(乾燥ナバ)以下の人は六〇枚でドラムかん二本を用意し、三〇貫以下の人は三〇枚で良く、ドラムかん一本を用意する。建設の時期については従来椎茸の発生を目前に又は茸の姿を発見して室造りをする人が案外に多くある

のほかならぬ事である。斯のような場合は、火床の火も燃えにくく、室の土壁が乾燥してないので、生椎茸より壁の方に湿度をとられ、壁が乾いて茸が乾きにくいのを知りながら平気で行われている。

乾燥場は出来る丈、前年の秋材料を準備し、翌年の夏建造するのが得策である。

尚、設計図は組合にて準備していただきますので利用して下さい。

記  
鹿野川局七八一五番(中敷水) 増田 繁 寿  
鹿野川局七八五番(中敷水) 久岡 重 信  
鹿野川局七八五番(下敷水) 二宮 武 雄

## 県森連木材市売場相場

(3月5日)

長さ	経寸	すぎ	ひのき	まつ	備考
13尺2寸	15下	39・29	39・29		畷川土場の値
	20上	34・76		まつは14尺	であり
	35上	39・29	39・29		市売場に於ける中値を計上
	50上	30・50	34・76	23・19	致しました
	60上	30・50	38・64		
	尺上	36・06		26・34	
10尺	25下	29・58	29・58		
	35上	29・58	32・16		
	60上	30・97	34・76	21・50	
6・6尺	25下	17・91	17・91	パルプ7尺	
	30上	14・02	14・02	17・60	
7尺	60上	25・69	29・58	21・00	
3尺	35上	11・44	12・73		
20尺	50上	38・64	41・00	27・50	

## 電話開設

農村公衆電話が次の通り開設した。